

評定 25-00

00邸 耐震補強工事施工結果報告書

[サンプル]

事務所名

耐震補強工事施工結果報告書 添付図書リスト

平成25年5月1日
耐震化促進係
評定委員会

添付順序	添付書類・図書・詳細
■ 表紙	評定番号 ○○邸耐震補強工事施工結果報告書 施工期間 第1～3検査日 報告日 設計監理事務所名 施工会社名
■ 施工結果報告書	A 工事概要 [発注者・工事場所・主要用途・建築面積・延床面積・規模] B 評点について [現状(補強前)評点 補強後評点(評定時、施工後)] C 補強の目的 [補強方針、施工後の評点についてなど] D 変更事項他 [評定時からの補強内容の変更について、1階および2階に分けて位置や内容を詳しく記述。また、変更理由についても記述] E 特殊な材料 [建材名 メーカー名 国土交通大臣認定番号] ・工法
■ 補強後計算書 (最終版)	*評定時より変更があった場合のみ添付 1 耐震性能評価書 捺印(コピー不可) 2 計算書 印刷項目は別紙参照 (カラー印刷)
■ 施工写真	写真撮影参考例 別紙参照 1 補強下地写真 (金物・筋かい・受材施工後で、補強面材を張る前の状態) 2 柱脚柱頭金物写真 (左上・右上・左下・右下) 3 補強面材写真 (構造用合板、認定耐震パネル等施工後で釘やビスが見える状態) 4 仕上げ写真 (ビニールクロス等の仕上げ完了時) 5 基礎補強写真 (配筋時、コンクリート打ち完了時) 6 その他 (天井内水平剛性補強、おかぐら補強、受け梁補強等) 7 金物取付け状況表 (柱金物・筋かい金物について、実際に使用した金物名を表示) 8 コメント (変更があった場合等は内容を記入) *写真は各補強壁毎に全数きちんと確認できるようにすること。
■ 図面	*変更の有無にかかわらず添付 1 1階平面図(完了時) 1/50 程度 (評定時から変更になった個所は 2 2階平面図(完了時) 1/50 程度 位置及び内容ともに赤色で表示) 3 1・2階補強金物仕様及び柱金物位置図 (平面図と併用可) *施工写真と整合していること。
■ 各種認定書の写し	1 特殊な材料認定書 (認定面材、認定ブレース等) 2 使用金物認定書 (柱脚柱頭接合金物、筋かい金物等) カタログのコピー可 ただし、金物耐力が表示されていること。
■ その他	

検査時の指摘事例及び施工における注意事項

耐震補強工事は他の工事と違い＜設計者と施工者の共同作業＞の意味合いが強い工事ですので施工者側の意見も大切と考えています。

下記のとおり検査時に検査員より指摘を受けた主な事例と施工上の留意点をまとめましたので参考にしてください。

※ 解体する前に補強箇所及び周囲の状態を把握し、その場所が＜補強工事を行う上で有効か＞＜支障になることはないか＞などについて施工者側でも再確認する

1) 基礎補強を行う場合について

- ※ 現状の基礎の状態が設計図通りかの確認をまず行う。
 - ・根入れ深さ ・基礎成の寸法 ・厚みの寸法 ・ベースの有無 ・コンクリートの劣化状態(アンカー打ちに耐えられるか)等の確認を補強工事に着手する前に必ず行うよう心掛けてください。
- * 工事特記仕様書(1/6)または基礎詳細図に従って施工する。
- * 抱き基礎補強は、コンクリートの付着を良くするため接着部の目荒らしを十分に行い、水湿しを行ってからコンクリートを打つ。
- * 樹脂接着系アンカーの施工要領はメーカーの取り扱い説明書に準拠する。
- * 掘削孔にコンクリート粉などが残ると接着性能が低下するので、丁寧に孔内をブローア、掃除機等を用いて掃除を行う。
- * 外部抱き基礎補強は、雨水対策として上部表面に傾斜をつける。
- * 通風口に当たる場合などは設計者に報告し指示を受ける。

2) アンカーボルトの施工(ボルト使用のホールダウン金物とも)

※ 樹脂接着系アンカーを打ち込む際、アンカー打ちに耐えられる基礎かを判断する

- * 工事特記仕様書(3、4、5/6)または建防協発行「木造住宅の耐震補強の実務」のアンカーボルト配置基準に従って、柱より200mm以内に配置する。
- * 樹脂接着系アンカーの施工要領はメーカーの取り扱い説明書に準拠する。
- * 樹脂接着系アンカーを打ち込む際、解体しない反対方向の壁及び筋違い等の影響で打ち込む位置がどうしても手前になり、土台及び基礎の「ヘリ空き寸法」が不足し、まれに基礎の立上り面が破損している場合があるので打ち込み完了後に基礎の点検を行う。
 - …どうしてもヘリ空き寸法が確保できない場合には「アンカー金物」を作るなどして対処する
 - …柱の引き抜き耐力が大きい場合にはアンカーボルトにも大きな引抜き力が働く
- * 掘削孔にコンクリート粉などが残ると接着性能が低下するので、丁寧に孔内をブローア、掃除機等を用いて掃除を行う。
- * 土台の腐食や著しい劣化を発見した際は設計者に報告し処置をこうずる。
- * 防錆剤を使用する場合は、においの無いものでシックハウス対策を講じる。
 - ・稀に＜クレオソート＞を使っているケースがある

3) 補強下地(筋かい、柱脚柱頭金物)について

- * 筋かいは指定の断面寸法を厳守すること。
- * 補強位置に既存筋かいがある場合は、撤去や金物取付けなどをむやみに行わず設計者と相談し取り扱いを考慮する。

- * 柱脚柱頭金物を図面と変更する場合は同じ耐力のものであっても設計者に事前に報告する。
- * 金物は柱と土台または柱と梁に直接施工する。受材などを挟まない。
- * 補強位置の梁に大きな段差がある場合は補強材を用いて梁の高さを揃え、ねじ込みボルトなどで既存梁に固定する。……工事特記仕様書(6/6)
- * 柱に腐食や著しい劣化を発見した際は設計者に報告し処置をこうずる。

4) 補強面材について

<構造用合板の場合>

- * 継ぎ手受材の寸法・釘の種類・釘ピッチなどは工事特記仕様書(4、5/6)に従う。
 - ・釘ピッチを指定間隔より細かくすると<壁基準耐力も上り>場合によっては柱頭柱脚の引き寄せ金物の耐力が不足する場合もあるので必ず設計者に確認する事。
- * 釘のめり込みすぎは、面材の耐力低下につながるため十分注意する。
- * N50など指定の釘を変更する場合は、耐力的根拠の示せるものを使用する。
- * 面材に穴(コンセント・エアコン等)をあける場合は工事特記仕様書(4/6)に従い、適切な「へりあき法」等を確保する。

<補強壁用認定材料の場合>

- * 施工マニュアルに従って施工する。
 - ・マニュアル通りに施工できない場合は必ず設計者に報告し指示を受ける。
 - ・<面材に穴(コンセント・エアコン等)をあける場合や面材上下の隙間の寸法など>
- * ビスのめり込みすぎは、面材の耐力低下につながるため十分注意する。
- * 受材取り付け位置の柱に貫などの穴が空いている場合は、ボンドを併用して埋木を行ってから釘やビスを施工する。
- * 柱脚柱頭金物は設計金物を使用。(同梱金物とは限らない。)

5) その他

- * 浴室部分を補強するに当たり腰部が<コンクリートブロック積み>であった場合には基本的に壁補強に耐えられないため必ず設計者に連絡し、対処方法を相談する事。
 - ・検査時すでに補強工事を行ってしまい補強はそのままの状態にして「計算上の評価を補強から外す」と考える方がいるが、現実には補強した木部分は壁基準耐力が上がっているため大きな引抜き力も発生し万が一の地震の際まず先にコンクリートブロック部分が壊れてしまう危険があるため注意する。
- * 特に下屋部分で壁補強を行う際、下屋部分は2階部分と架構が別体(柱を境にして横架材が繋がっていない)のため、横架材位置等で水平構面の補強を行い水平力が伝わり易い状態とする…工事特記仕様書(6/6)参照
- * 検査時には補強設計の内容と現場の施工状況に食い違いが出ないようにするため、大工さんのみではなく極力現場責任者が立ち会うようにする。
- * 検査を行う補強壁には図面と同じ補強箇所番号を壁に表示する。
- * 外壁の補強について
 - ・新旧継ぎ目部分の止水には十分注意する。
 - ・モルタル塗り部分にサイディング用の防水シート(タイベック等)は使用しない。
- * おかぐらの対策は設計者と協議し、横架材同士の一様性を向上させ上下階の緊結を図る。
- * 既存羽子板金物や火打ち梁にコーチボルトが施工されていない場合は設計者に報告し可能な限り施工する。
- * 解体した際など設計図と食い違いがある場合や図面通りの施工が困難な場合は、自己判断ではなく設計者と現場で協議し設計変更を行う。

6) 参考

「壁基準耐力 kN/m」と「壁倍率(建築基準法上)」の比較について

便宜的に $[\text{壁基準耐力kN/m}] = [\text{壁倍率}] \times 1.96\text{kN/m}$ の関係がある

<例として>

筋違い金物が取付いている場合の	壁基準耐力	壁倍率
30×90の筋違(片掛け)	2.4	1.5
45×90の筋違(片掛け)	3.2	2
構造用合板 厚9	5.2	2.5
45×90の筋違(たすき掛け)	6.2	4
45×90の筋違+合板(片面)	8.4	4.5
45×90の筋違+合板(両面)	11.6	6.5→5.0

<壁基準耐力の数値を約2で割り戻すと壁倍率の数値となる>ため例として<45×90の筋違+合板(片面)・・・壁基準耐力は8.4kN/m>で壁補強工事を行った場合、壁倍率2.0倍である45×90筋違に換算すると $8.4/3.2 = \text{約}2.6$ 本取付けた状態に近い数値となる。ただし「壁基準耐力からの壁倍率」と「建築基準法からの壁倍率」とでは数値に差異があるが、その理由についてはブルー本P36～37を参照されたい。

個人情報の保護を目的とし共通物件の資料とはしていない
部分があります。

添付書類および図書の詳細についてはこのサンプルを参考に

「戸建住宅耐震計画評価申請書 添付図書リスト」に従って
作成してください。

評定 25-〇〇

〇〇邸 耐震補強工事施工結果報告書

施工期間 平成 2 年 月 日～平成 2 年 月 日

第1回検査	平成2 年 月 日
第2回検査	平成2 年 月 日
第3回検査	平成2 年 月 日

平成 2 年 月 日

設計監理 株式会社 〇〇一級建築士事務所

施 工 株式会社 △△建設

木造住宅耐震検査委員会 殿

東京都練馬区:

Tel03-39 - 31 Fax03-39 - 31

E-mail: @gol.com

(株) 建築士事務所

担当者

第一回 耐震改修工事検査報告書

検査日 平成 年 月 日

申請者 : 様
担当事務所 : () 設計事務所
施工会社 : (株) 工務店

< 現場進行状況 >

現在1階和室(A)の天井、壁、床の解体が終了している。
既存基礎の補強、新規基礎の配筋が行われています。

< 検査箇所及び確認事項 >

- 1.既存の壁内部(下地・筋違い等)、横架材等の状態
- 2.既存基礎の状態と束石の位置や大きさ、新規基礎の配筋、基礎深さ
- 3.アンカーボルトの施工箇所

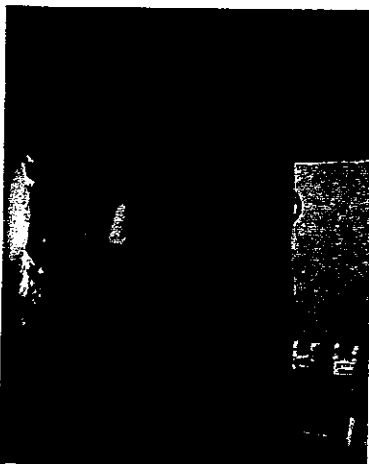
上記箇所および内容の確認
設計者立会いによる施工状況の確認

< 指摘事項 >

特になし

< 現場写真 >

和室解体時



和室押入れ解体時



和室基礎新設配筋



木造住宅耐震検査委員会 殿

東京都練馬区
Tel.03-39 - 31 Fax03-39 - 31
E-mail: @gol.com
(株) 建築士事務所
担当者

第二回 耐震改修工事検査報告書

検査日 平成 年 月 日

申請者 : 様
担当事務所 : () 設計事務所
施工会社 : (株) 工務店

< 現場進行状況 >

建物内部の補強は完了している。
現在2階外壁の補強が行われています。

< 検査箇所及び確認事項 >

- 1.内部補強箇所の仕上げ状態
- 2.外壁NO.14の筋違い、金物の取り付け状況
- 3.構造用合板(3×10板)取り付け、釘ピッチ

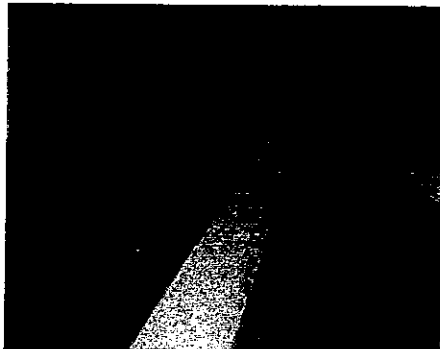
上記箇所および内容の確認
設計者立会いによる施工状況の確認

< 指摘事項 >

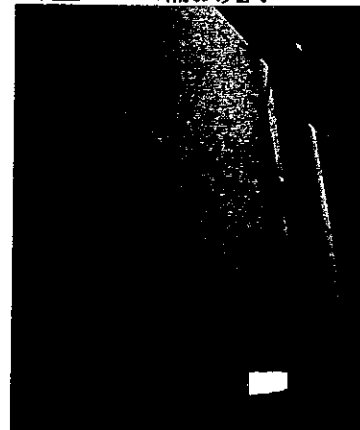
特になし

< 現場写真 >

外壁NO.14補強下地



外壁NO.14補強完了



木造住宅耐震検査委員会 殿

東京都練馬区

TEL03-39 - 31 Fax03-39 - 31

E-mail: @gol.com

(株) 建築士事務所

担当者

第三回 耐震改修工事検査報告書

検査日 平成 年 月 日

申請者 : 様
担当事務所 : () 設計事務所
施工会社 : (株) 工務店

< 現場進行状況 >

補強工事すべて終了しています。

< 検査箇所及び確認事項 >

外部補強箇所の仕上げ状況

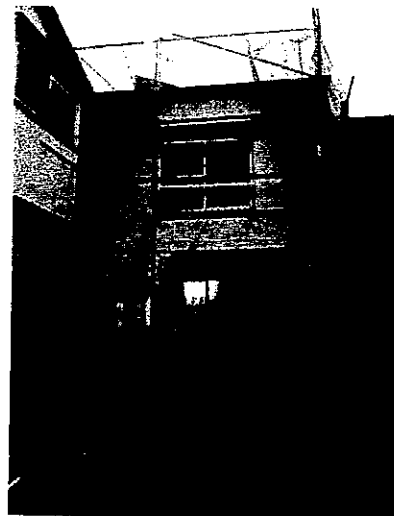
上記箇所および内容の確認
設計者立会いによる施工状況の確認

< 指摘事項 >

特になし

< 現場写真 >

補強完成外観



評定 - * * * *
サンプル邸耐震補強工事施工結果報告書

A 工事概要

工事名称 * * * * * 邸耐震補強工事
 発注者
 工事場所
 主要用途 一戸建の住宅
 建築面積 m²
 延床面積 m² (1階) m² (2階) m²
 規模 木造2階建て在来工法

B 評点について

現状(補強前)評点				補強後評点			
		X方向	Y方向		*評定時	X方向	Y方向
2階		0.83	0.86	→	2階	1.05	1.05
1階		0.16	0.46	→	1階	1.04	1.06
				→	*施工後	X方向	Y方向
				→	2階	1.05	1.05
				→	1階	1.04	1.06

※原設計通り

C 補強の目的 本工事は、現地調査の結果に基づき既存建物を相対的に補強するものであり、構造上の評点「Iw値 1.0以上」を確保した。

D 変更事項他 ※1.本建物は外周部のみ型の布基礎が廻され内部と増築部分は独立基礎(東立て)にて施工されていたため、基礎のない部分は新規に鉄筋コンクリートにて基礎を築造した上で耐力壁としての補強を行った。
 また、一部の補強箇所についても「抱き基礎」の増し打ちを行なった。
 ※2.面材には外部側は構造用合板、内部側は耐震パネル(ダイライト耐震壁)を主に使用し、内外部とも筋違いと併用して補強を行った。

[1階]

- ・基本的に変更なし
- ・補強予定以外の改修部分
- ①補強番号4のX3-Y4が半柱になっていた為、新規柱105角を入れた。
- ②補強箇所6の土台と柱が腐朽していた為、新規材料に入れ替えた。
- ③補強箇所15の基礎が独立基礎になっていた為、新規に鉄筋コンクリート基礎を築造した。また土台と柱が腐朽していた為、新規材料に入れ替えた。

[2階]

- ・基本的に変更なし
- ・補強予定以外の改修部分
- ①補強箇所17に添えられていた100角の枕梁が切れていた為金物を取り付けて補強を行った。

E 特殊な材料・工法 本補強工事には、下記メーカーの材料を使用した
 耐震パネル(ダイライト耐震壁)は「大建工業株式会社:かべ大将」
 国土交通大臣認定(壁倍率) 認定番号FRM-0082
 (財)日本建築防災協会(壁強さ倍率) 評価番号DPA—住技-5

F. 耐震改修工事助成条件のうち「道路後退による塀、門扉の撤去又は後退」に該当 有 ・ 無

補強後計算書

(最終版)

* 評定時より変更があった場合のみ添付

- ・ 評点の変更
- ・ 補強箇所・補強内容の変更

施工写真

* 写真は各補強壁毎に全数きちんと確認できるようにすること。

- 補強下地写真 (金物・筋かい・受材施工後で、補強面材を張る前の状態)
- 柱脚柱頭金物写 (左上・右上・左下・右下)
- 補強面材写真 (構造用合板、認定耐震パネル等施工後で釘やビスが見える状態)
- 仕上げ写真 (ビニールクロス等の仕上げ完了時)
- 基礎補強写真 (配筋時、コンクリート打ち完了時)
- その他 (天井内水平剛性補強、おかぐら補強、受け梁補強等)
- 金物取付け状況 (柱金物・筋かい金物について、実際に使用した金物名を表示)
- コメント (変更があった場合等は内容を記入)

写真撮影参考例 別紙参照

耐震補強工事写真報告書<説明>		評定 **-**	**** 邸	補強番号																			
評定番号を記入		現場名を記入		図面の補強番号を記入																			
No.1	解体時全景	No.2	補強下地全景	No.3	金物取付状況(左上)																		
<p>既存壁の仕上げ等を撤去し、解体時の壁内の様子及び解体位置(補強場所)がわかるような全景の写真を貼り付ける</p>		<p>面材張り直前の全景写真を貼り付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筋違いの取付け状況 ・面材を張り上げる前の受け材等の取付け状態 <ul style="list-style-type: none"> …面材の継ぎ手、柱際の受け材土台・横架材の受け材等 ・以下の部分的な写真の撮影部位が判り易いように撮影する 		<p>左上の拡大写真を貼り付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柱頭引き寄せ金物の取付け状態 ・筋違い及び筋違い補強金物の取付け状態 																			
No.4	金物取付状況(右上)	No.5	金物取付状況(左下)	No.6	金物取付状況(右下)																		
<p>右上の拡大写真を貼り付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柱頭引き寄せ金物の取付け状態 ・筋違い及び筋違い補強金物の取付け状態 		<p>左下の拡大写真を貼り付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柱脚引き寄せ金物の取付け状態 ・筋違い及び筋違い補強金物の取付け状態 ・アンカーボルトの取付け状態 		<p>右下の拡大写真を貼り付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柱脚引き寄せ金物の取付け状態 ・筋違い及び筋違い補強金物の取付け状態 ・アンカーボルトの取付け状態 																			
No.7	補強完了時全景	No.8	仕上げ完了時全景	No.9	抱き基礎 配筋状況																		
<p>面材を張り上げた状態の写真を貼り付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面材の張り方 ・釘打ちの状態 		<p>仕上げ完了時の全景写真を貼り付ける</p>		<p>基礎補強を行った場合の写真を貼り付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配筋が完了し、コンクリートを打設する直前の状態 ・必要に応じ部分拡大、詳細の写真 																			
金物取付け状況				コメント																			
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 15%;">左</th> <th style="width: 15%;">右</th> <th style="width: 60%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>柱頭</td> <td style="text-align: center;">HD-20</td> <td style="text-align: center;">SC-ONE</td> <td rowspan="3"> <ul style="list-style-type: none"> ・柱頭・柱脚の引き寄せ金物の種類 ・筋違い補強金物の種類 </td> </tr> <tr> <td>筋違</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">2倍L</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">2倍L</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>柱脚</td> <td style="text-align: center;">HD-20</td> <td style="text-align: center;">SC-ONE</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					左	右		柱頭	HD-20	SC-ONE	<ul style="list-style-type: none"> ・柱頭・柱脚の引き寄せ金物の種類 ・筋違い補強金物の種類 	筋違	-	2倍L		2倍L	-	柱脚	HD-20	SC-ONE		<ul style="list-style-type: none"> ・設計時から変更があった場合の変更内容及び理由を記入する <ul style="list-style-type: none"> * 補強方法の変更…面材の変更等 * 補強金物の変更 * 新規アンカーボルトの追加の有無 * 既存筋違いの評価、取扱い方法 ・No.1～9に貼り付けできなかった写真の貼り付けスペースとして利用する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>写真を撮影する際には、被写体とともに図面に記載されている「補強番号」及び「現場名」を記載した看板等を写し込むようにする</p> </div>	
	左	右																					
柱頭	HD-20	SC-ONE	<ul style="list-style-type: none"> ・柱頭・柱脚の引き寄せ金物の種類 ・筋違い補強金物の種類 																				
筋違	-	2倍L																					
	2倍L	-																					
柱脚	HD-20	SC-ONE																					

耐震補強工事写真報告書	評定 25-***	サンプル 邸	補強番号	1
-------------	-----------	--------	------	---

No.1	補強下地全景	No.2	金物取付状況(左上)	No.3	金物取付状況(右上)
------	--------	------	------------	------	------------



No.4	金物取付状況(左下)	No.5	金物取付状況(右下)	No.6	補強完了
------	------------	------	------------	------	------



No.7	仕上げ	No.8	基礎配筋	No.9	基礎コンクリート
------	-----	------	------	------	----------



金物取り付け状況			コメント		
----------	--	--	------	--	--

	左	右	*抱き基礎補強 *新規にアンカーボルトを設置		
柱頭	オメガ20	オメガ15			
筋違	1.5倍	1.5倍			
柱脚	HD-20	HD-15			

耐震補強工事写真報告書	評定 25-***	サンプル 邸	補強番号	2
-------------	-----------	--------	------	---

No.1	補強下地全景	No.2	金物取付状況(左上)	No.3	金物取付状況(右上)
------	--------	------	------------	------	------------



No.4	金物取付状況(左下)	No.5	金物取付状況(右下)	No.6	補強完了
------	------------	------	------------	------	------



No.7	仕上げ	No.8	基礎配筋	No.9	基礎コンクリート
------	-----	------	------	------	----------



金物取り付け状況			コメント		
----------	--	--	------	--	--

<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>左</th> <th>右</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>柱頭</td> <td>オメガ15</td> <td>FC-10</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">筋違</td> <td></td> <td>1.5倍</td> </tr> <tr> <td>1.5倍</td> <td></td> </tr> <tr> <td>柱脚</td> <td>HD-15</td> <td>FC-10</td> </tr> </tbody> </table>				左	右	柱頭	オメガ15	FC-10	筋違		1.5倍	1.5倍		柱脚	HD-15	FC-10	<p>*抱き基礎補強</p> <p>*新規にアンカーボルトを設置</p>		
	左	右																	
柱頭	オメガ15	FC-10																	
筋違		1.5倍																	
	1.5倍																		
柱脚	HD-15	FC-10																	

No.1	補強下地全景	No.2	金物取付状況(左上)	No.3	金物取付状況(右上)
					
No.4	金物取付状況(左下)	No.5	金物取付状況(右下)	No.6	補強完了
					
No.7	仕上げ	No.8		No.9	
					

金物取り付け状況	コメント												
<table border="1" style="margin: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>左</th> <th>右</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>柱頭</td> <td>FC-10</td> <td>HD-20</td> </tr> <tr> <td>筋違</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>柱脚</td> <td>FC-10</td> <td>HD-20</td> </tr> </tbody> </table>		左	右	柱頭	FC-10	HD-20	筋違			柱脚	FC-10	HD-20	<p>* 新規にアンカーボルトを設置</p>
	左	右											
柱頭	FC-10	HD-20											
筋違													
柱脚	FC-10	HD-20											

No.1	補強下地全景	No.2	金物取付状況(左上)	No.3	金物取付状況(右上)
					
No.4	金物取付状況(左下)	No.5	金物取付状況(右下)	No.6	補強完了
					
No.7	仕上げ	No.8		No.9	
					

金物取り付け状況	コメント												
<table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">左</td> <td style="text-align: center;">右</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">柱頭</td> <td style="text-align: center;">kk</td> <td style="text-align: center;">kk</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">筋違</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">柱脚</td> <td style="text-align: center;">kk</td> <td style="text-align: center;">kk</td> </tr> </table>		左	右	柱頭	kk	kk	筋違			柱脚	kk	kk	<p>* 新規にアンカーボルトを設置</p>
	左	右											
柱頭	kk	kk											
筋違													
柱脚	kk	kk											

No.1	補強下地全景	No.2	金物取付状況(左上)	No.3	金物取付状況(右上)
					
No.4	金物取付状況(左下)	No.5	金物取付状況(右下)	No.6	補強完了
					
No.7	仕上げ	No.8		No.9	
					

金物取り付け状況	コメント															
<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="3" style="text-align: center;">通し柱</th> </tr> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">左</th> <th style="text-align: center;">右</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">柱頭</td> <td style="text-align: center;">オメガ15</td> <td style="text-align: center;">kk</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">筋違</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">柱脚</td> <td style="text-align: center;">FC-10</td> <td style="text-align: center;">kk</td> </tr> </tbody> </table>	通し柱				左	右	柱頭	オメガ15	kk	筋違			柱脚	FC-10	kk	
通し柱																
	左	右														
柱頭	オメガ15	kk														
筋違																
柱脚	FC-10	kk														

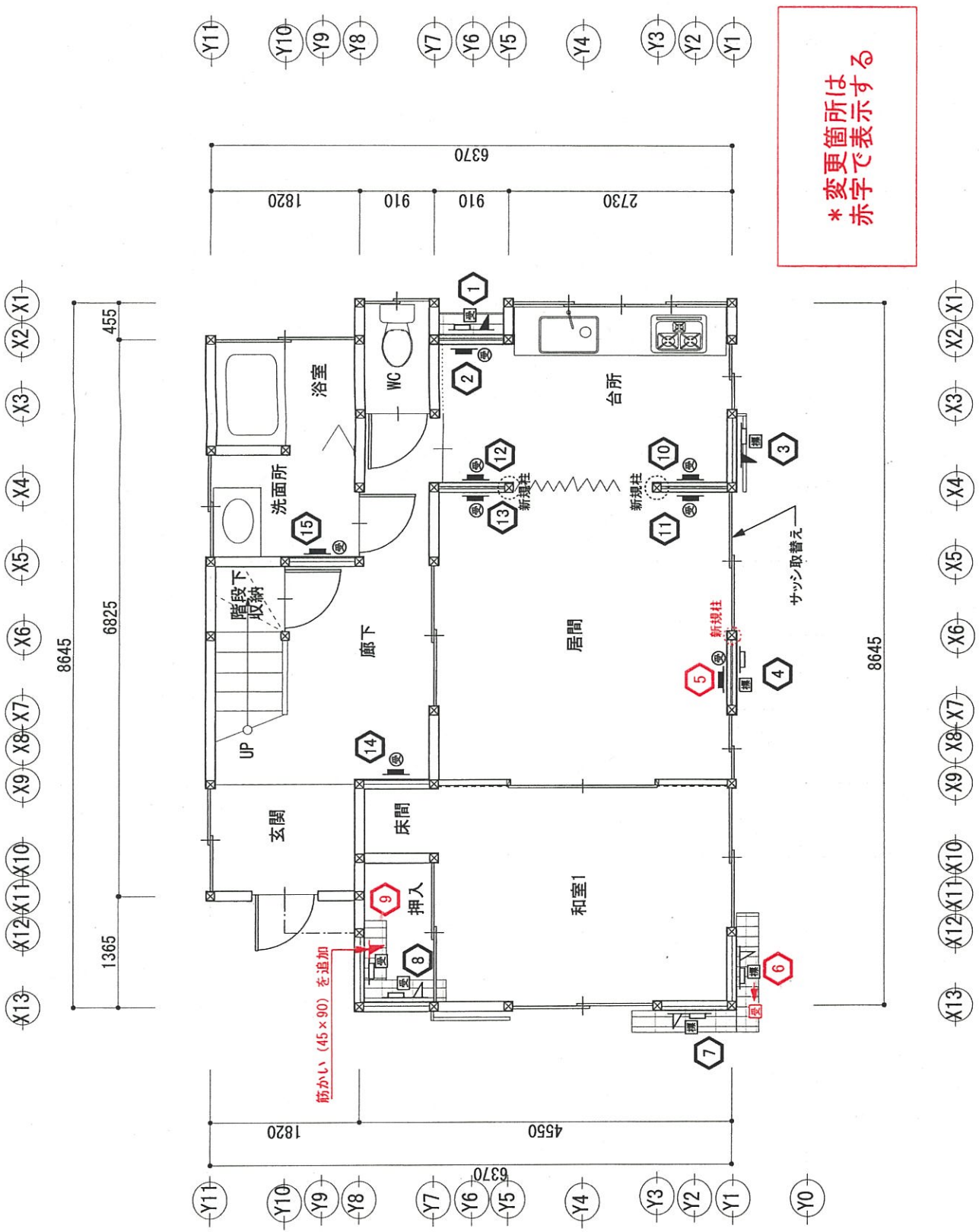
No.1	補強下地全景	No.2	金物取付状況(左上)	No.3	金物取付状況(右上)
					
No.4	金物取付状況(左下)	No.5	金物取付状況(右下)	No.6	補強完了
					
No.7	仕上げ	No.8		No.9	
					

金物取り付け状況	コメント												
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width:10%;"></th> <th style="width:45%;">左</th> <th style="width:45%;">右</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>柱頭</td> <td>FC-10</td> <td>FC-10</td> </tr> <tr> <td>筋違</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>柱脚</td> <td>HD-20</td> <td>FC-10</td> </tr> </tbody> </table>		左	右	柱頭	FC-10	FC-10	筋違			柱脚	HD-20	FC-10	
	左	右											
柱頭	FC-10	FC-10											
筋違													
柱脚	HD-20	FC-10											

- 【共通事項】**
1. **○** は補強番号を示す。
 2. **□** は補強（改修）範囲を示し、特記なき限り補強内容は下記とする。
 3. **□□□** は新規鉄筋コンクリート布基礎設置箇所
 4. **■** は新規柱設置箇所
 5. **△** 筋違い 30×90（シングル）
 6. **▲** 筋違い 45×90（シングル）
 7. **▬** 構造用合板 t=12 釘N50@150
 8. **—** ダイヤライト耐震壁「かべ大坪」 t=12.5

- 1 構造用合板t=12 受材工法 筋かい45×90(2倍金物)
- 2 「かべ大坪」 入隅受材仕様
- 3 構造用合板t=12 標準工法 筋かい45×90(2倍金物)
- 4 構造用合板t=12 標準工法
- 5 「かべ大坪」 入隅受材仕様 **新規柱設置**
- 6 構造用合板t=12 受材工法 筋かい30×90(1.5倍金物)
- 7 構造用合板t=12 標準工法 筋かい30×90(1.5倍金物)
- 8 構造用合板t=12 受材工法 筋かい30×90(1.5倍金物)
- 9 構造用合板t=12 受材工法 筋かい45×90(2倍金物) **追加**
- 10 「かべ大坪」 入隅受材仕様
- 11 「かべ大坪」 入隅受材仕様
- 12 「かべ大坪」 入隅受材仕様
- 13 「かべ大坪」 入隅受材仕様
- 14 「かべ大坪」 入隅受材仕様
- 15 「かべ大坪」 入隅受材仕様

* 新設パネル（ダイヤライト耐震壁）は「大建工業株式会社 かべ大坪」をしようする。「かべ大坪 設計施工説明書」に準じて施工する。（規格準） 認定番号F08-0082
 国土交通大臣登録（構造） 構造番号F08-0082
 評価番号00P-世技子2（変更・追加）



*** 変更箇所は赤字で表示する**

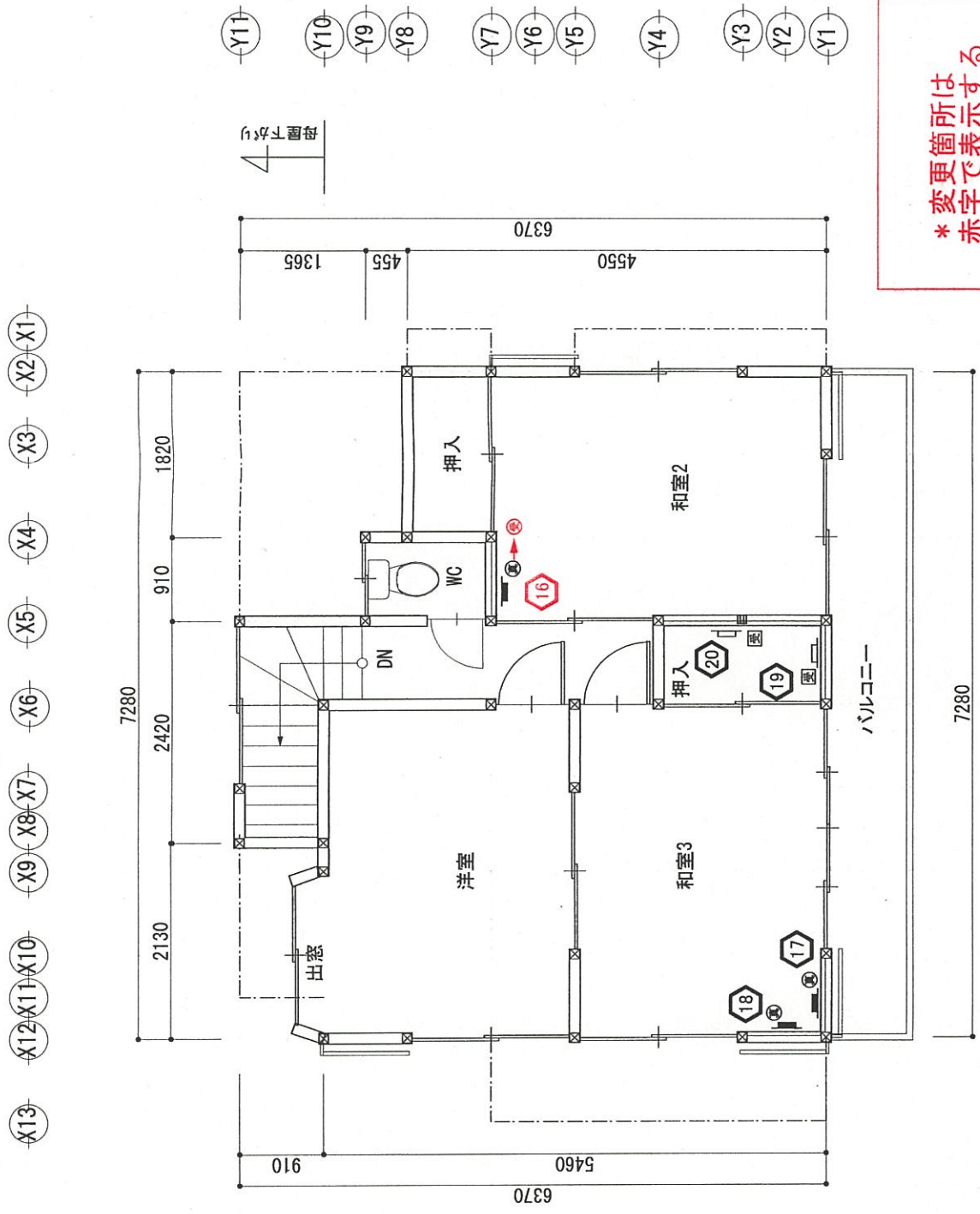
事務所登録 第136...号	工事名	〇〇 耐震補強工事
資格 一級建築士	図面名	1階平面図 (補強完了時)
氏名 〇〇	設計年月日	平成25年7月6日
		縮尺: 1/50 (図面NO. 1)

株式会社 〇〇一級建築士事務所
 東京都練馬区桜台...
 Tel: 03-3948-... Fax: 03-3948-...

【共通事項】

1. n は補強番号を示す。
2. □ は補強（改修）範囲を示し、特記なき限り補強内容は下記とする。
3. □□ は新規鉄筋コンクリート布基礎築造箇所
4. ■ は新規柱設置箇所
5. は筋違い 30×90（シングル）
6. は筋違い 45×90（シングル）
7. 構造用合板 t=12 釘N50@150
8. ダイヤライト耐震壁「かべ大將」 t=12.5

- 16 n 「かべ大將」入隅受材仕様
- 17 n 「かべ大將」真壁仕様A「左右とも柱」
- 18 n 「かべ大將」真壁仕様A「左右とも柱」
- 19 n 構造用合板t=12 受材工法 図
- 20 n 構造用合板t=12 受材工法 図



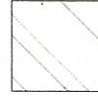
*変更箇所は赤字で表示する

*耐震パネル（ダイヤライト耐震壁）は「大建工業株式会社」かべ大將を用いた。耐震パネルは「かべ大將」設計施工説明書による。図面には「かべ大將」の仕様（真壁仕様A）が記載されている。図面には「かべ大將」の仕様（真壁仕様A）が記載されている。図面には「かべ大將」の仕様（真壁仕様A）が記載されている。図面には「かべ大將」の仕様（真壁仕様A）が記載されている。

株式会社 〇〇一級建築士事務所 東京都練馬区栄台... Tel.: 03-3948-... Fax: 03-3948-...	事務所登録 第136...号 資格 一級建築士 氏名 〇〇	工事名 〇〇 耐震補強工事 図面名 2階平面図（補強完了時） 設計年月日 平成25年7月6日 縮尺: 1/50 図面NO. 2
--	-------------------------------------	---

*柱脚柱頭使用金物

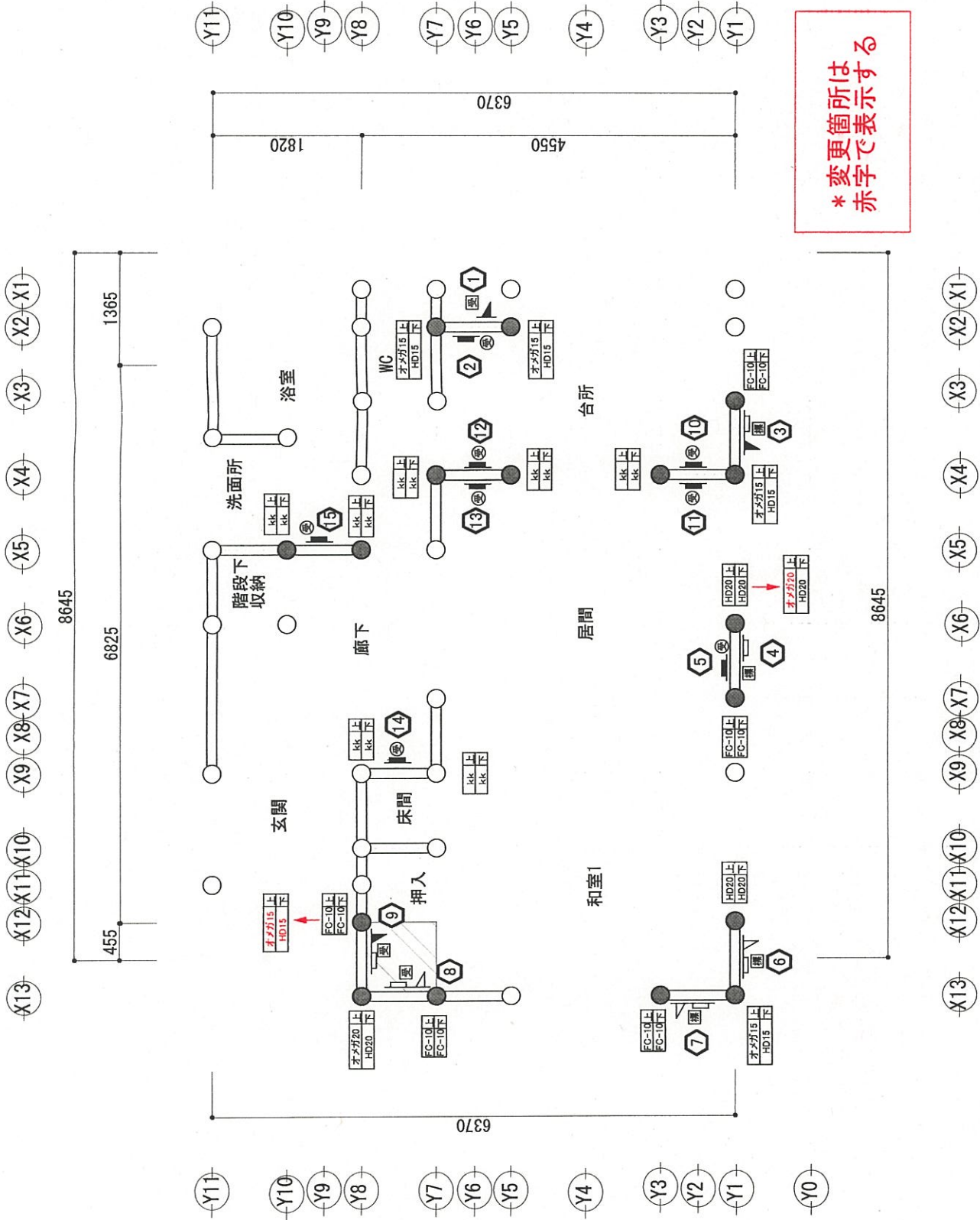
- ・ 10kN引き寄せ金物 (へ)
kk . FC-10
- ・ 15kN引き寄せ金物 (と)
HD-15 (柱脚)
オメガコーナ-15kN
- ・ 20kN引き寄せ金物 (ち)
HD-20 (柱脚)
オメガコーナ-20kN
- ・ 25kN引き寄せ金物 (り)
HD-25
- ・ 30kN引き寄せ金物 (ぬ)
HD-15×2
オメガコーナ-15kN×2



水平構面補強
構造用合板t=24

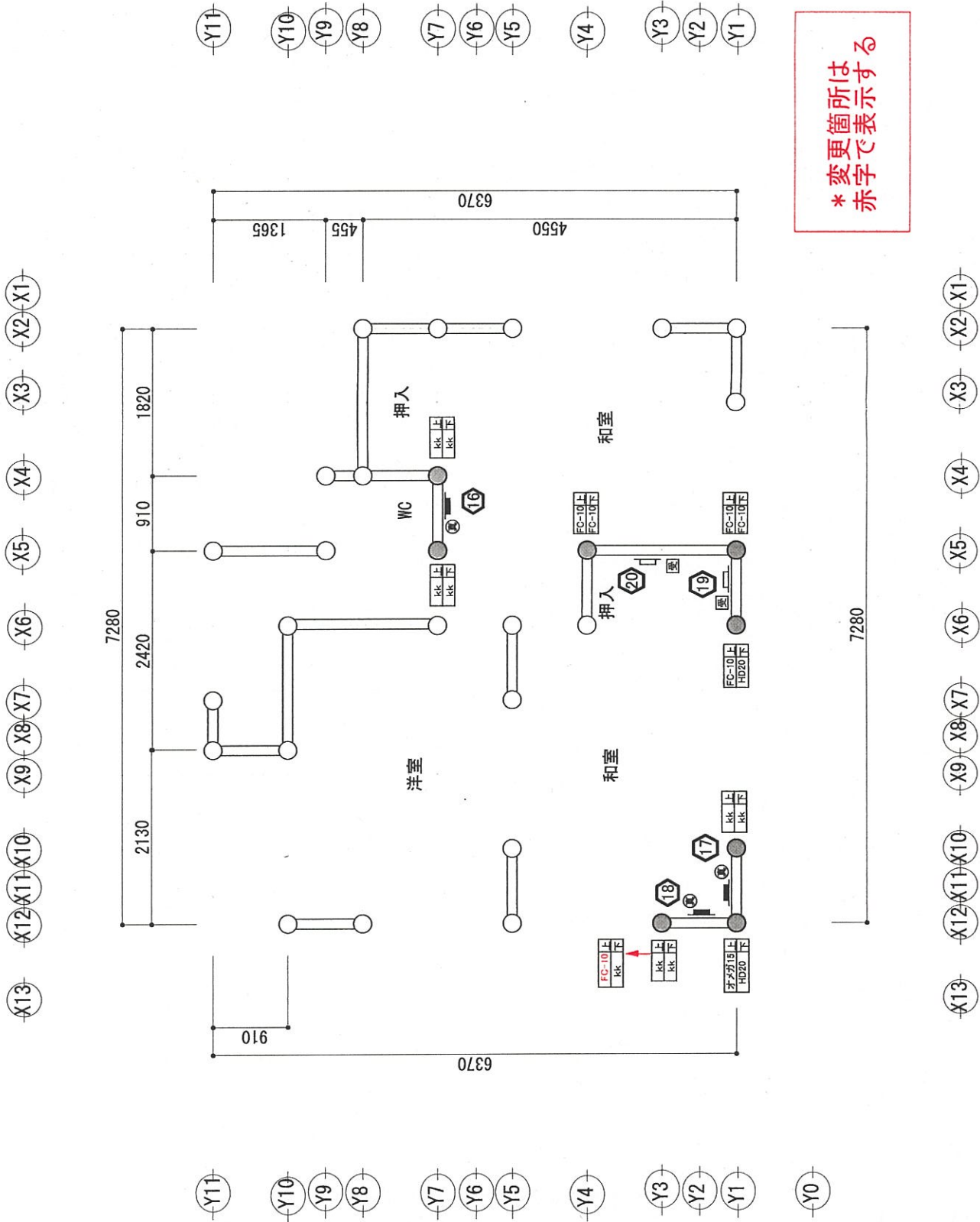
1階耐力壁・柱位置図

*変更箇所は
赤字で表示する



*柱脚柱頭使用金物

- ・10kN引き寄せ金物 (へ) k k F C-10
- ・15kN引き寄せ金物 (と) HD-15 (柱脚) オメガコーナ—15kN
- ・20kN引き寄せ金物 (ち) HD-20 (柱脚) オメガコーナ—20kN
- ・25kN引き寄せ金物 (り) HD-25
- ・30kN引き寄せ金物 (ぬ) HD-15×2 オメガコーナ—15kN×2



2階耐力壁・柱位置図

株式会社 〇〇一級建築士事務所

東京都練馬区桜台
Tel: 03-3948- Fax: 03-3948-

事務所登録 第136・・号
資格 一級建築士
氏名 〇〇

工事名 〇〇邸耐震補強工事

図面名 2階柱金物仕様及び柱位置図
設計年月日 平成25年7月6日 縮尺: 1/50 図面NO. 4